

環境のワールドカップと技術開発



岡山大学大学院自然科学研究科 教授

工学博士 田 中 勝
Masaru Tanaka

私も加わった経済財政諮問会議の専門調査会で、循環型経済社会については、「豊かな環境を守りつつ、資源を無駄なく活用し、新たな制度やルールの下に、広範な分野で市場と雇用の拡大が実現されていく社会」と位置付けている。そして国民共有の目標として、安全・安心な生活環境を整備し、活気に満ち、魅力あふれた「美しい日本」の建設をし、革新的技術や製品が世界のモデルとして評価され、国際社会をリードすることを掲げている。

先ほど開かれたサッカーのワールドカップでは日本の技術レベルの高さを世界に遺憾なく示すことができた。日本のレベルはヨーロッパや南米に比べて低い、と思っていたのが今回の戦いで速さ、シュート力、戦略、精神力など総合的な技術レベルの高さが世界トップレベルであることを証明した。

経済のワールドカップでは、戦後のゼロからの出発で経済を驚異的なペースで発展させ、世界のトップレベルに追いついた。環境のワールドカップでも、水俣病やイタタイタイ病を引き起こした公害問題を解決した日本の環境技術は世界トップレベルとして評価されて良いのではないだろうか。経済と環境問題を解決した国として、開発途上国からの環境分野での技術援助要請が多い。下水道や浄化槽の整備で河川の水質は大幅に改善され、焼却炉の煙突から黒煙は見られず、ダイオキシン類対策まで徹底され、最近の廃棄物処理技術は高度な処理技術、ガス化溶融技術をものにし、リサイクル技術の開発や環境を配慮した動脈産業のグリーン化も進展している。

しかしこの分野で築いた日本の技術は海外ではあまり活躍していない。なぜかアジア諸国も含めた海外では、欧米の環境産業企業や廃棄物処理会社が進出して、日本からの技術が活用されていない。日本の技術は複雑すぎるとか、高すぎるとかいわれ、そもそもその国の環境問題を解決するための貢献がまだ少ないように見受けられる。また一方もっとその国にあった海外で通用する技術の開発も必要かもしれない。

日本でも循環型社会にマッチした技術として、そもそも廃棄物の発生抑制につながるリデュース技術、修理などするリユース技術、再生するリサイクル技術の開発が促進されている。処理施設のリユースやリサイクル技術と、もっと省エネの運転や維持管理の技術開発も必要であろう。廃棄物の処理によって、環境負荷の低減を図り、豊かな環境を守ることにつながるが、その処理そのものに資源やエネルギーの消費をできるだけ抑制し環境負荷をもたらさないような施設の整備や運転であることも求められる。環境のワールドカップのチャンピオンになるためにはまだまだ技術開発すべき課題はたくさんありそうである。